
許されざる紳士-THE HENTAI-

柳雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

許されざる紳士―THE HENTAI―

【Nコード】

N4046N

【作者名】

柳雨

【あらすじ】

あの『変態という名の紳士』が、まさかの主役を勤める超短編：許されざる所業の数々と逮捕の瞬間を捉えた貴重な場面が今、ここに…

(前書き)

※本作はジャンプSQにて連載中の『ギャグマンガ日和』に登場する代表的なキャラクター・クマ吉くんをピックアップして主役にした短編、且つ、作者のうろ覚え&mp;悪ふざけ全開です(汗)

※それも含めて変態ネタならびに下ネタに耐性の無い読者の皆様は閲覧の際にはくれぐれもご注意下さい…

— 1・『疑わしきは罰せよ』

—世界のどこかにあるという、のどかな雰囲気溢れる動物達が住む町：動物の子供達が今日もどうぶつ小学校に元気に登校していくよ！

—四年一組！

「ああもう、退屈ね：学校に隕石でも落下して壊れて休校になっちゃえばいいのに。」

「いきなり何怖いことを言ってるの、ウサ美ちゃんッ！？どこのSF映画の世界なんだい！？休校どころの騒ぎじゃ済まないよ！？」

—いきなりツツコミ所満載で物騒なことをほざきやがったのはウサギの女の子・ウサ美ちゃん、四年一組が誇る名（迷？）探偵でもあるんだよ！

「ねえちよっとクマ吉くん：退屈だから、自分の両の眼をくり抜いて醤油ベースのダシで煮込んで食べなさいよ。」

「や、やだよ！そんな軽くカニバリズムなことなんて！？僕の眼はマグロじゃないよ！？」

—マグロに限らず魚は一番美味しいところは実は目玉なんだよ、一つたためになることを知ったね！現在進行形でツツコミをしてるクマ

の男の子・クマ吉くん！

「え〜ん！ええ〜ん！」

「どうしたの？ニャン美ちゃん？」

一涙をポロポロと流しながら悲しそうな声で泣くのは二人のクラスメイト、ネコの女の子・ニャン美ちゃんだよ！

「ロッカーを見たら私の体操服が無くなったの〜！次の時間は体育なの〜！」

一…どうやらここで事件発生…と、その時！

一クワツ！！

一ウサ美ちゃんの眼が有り得ない程イッちゃった（イヤラシイ意味じゃないよ！）眼に変わり、『なんか怖ッ！！』な感じになっちゃったよ！

（あの眼はウサ美ちゃんのインスピレーションが働きかけてる時の眼だ！この眼になった時が最後！事件の謎は解けた、じっちゃんの名に賭けた様に！だけどこの眼の特徴から周りから『麻薬をやってイッちゃった眼みたいで怖ッ！！』とか言われてるのは内緒だったりする…！！）

一長々と御丁寧な説明をありがとう、クマ吉くん！

（さあ、ウサ美ちゃんの推理が始まるぞ！！）

—果たして犯人は…？

「…長い前フリで行数稼いでる『ギャグマンガ日和』に関してはうる覚えな作者には悪いけど…犯人はもう『アンタ』以外いないでしょ、クマ吉くん？ どうせアンタが体操服持ってるかアンタの服の下にあるんでしょ？ 出しなさいよ変態クマンバチ。」

—…緊縛…否、緊迫した^{ムード}雰囲気^{ムード}が台無しだよ！ ウサ美ちゃん！？

「ち、違うよ！？ 『今回』ばかりは違うよ、ウサ美ちゃん！！ 証拠も無しに疑うなんて最低だよ！ 『疑わしきは罰せず』だよ！ しかもクマンバチって…僕は虫じゃない！！ 仮に変態だとしても『変態という名の紳士』だよ！！」

—あらあら大変…クマ吉くん、ってか『今回ばかりは』って、以前は自分が犯人だったことを認めちゃってるよ…。

「解ったよ！ もう！！」

—…何が解ったのだろうか？ 嫌な予感が…。

「証拠を見せるよ！」

—…いきなり教室のド真ん中で堂々と今着てる服を全部脱ぎ出すクマ吉くん…所謂ストリップである。

「どう！？ニャン美ちゃんの体操服なんて盗んでないよ！？これで解ったッ！？」

—確かに盗んではないことを証明し、下半身^{モザイク}を二人に見せつけながら全裸で誇らしく語るクマ吉…尚、ここからは子供番組口調な地の文（と、いう名のナレーション）はここで終わらせて普通に語ることにする…あの口調、素でしんどいねん（b y. 作者）。

—しばらくして、両手を縄で括られて警察官に連行され、パトカーに乗せられるクマ吉…え？罪？当然教室で行ったセルフストリップショーが原因である。

—ちなみに後日、クマ吉の家を警察が家宅捜査したところ、ニャン美の失くなったはずの体操服どころか靴下やスクール水着などが普通に、それも多数あったため罪はグンと重くなったという…。

— 2・『罪を憎んで人も憎め』

— とうぶつ小学校。

「先生：ゴメンなさい、窓を割っちゃいました…。」

（ペン介くんでもそういうミスをするんだなあ…）

— ペンギンの男の子・ペン介は掃除の最中、誤ってホウキを窓にぶつけて蜘蛛の巣を作ってしまったのだ、そのことをパンダの女教師に正直に話して謝った…と、それを見つめるは我らの
THE H
ENTAI クマ吉。

「いいのよ、正直に話してくれて先生感心したわ…許してあげるわ、ペン介くん。」

「…ごめんなさい。」

「ふふ…『罪を憎んで人を憎まず』よ。」

（『罪を憎んで人を憎まず』か…素直に謝れば許してくれるってわけか。）

— 申し訳なさそうに謝るペン介を優しく慰める（イヤラシイ意味ではない）先生…その言葉で何か勝手な解釈をするクマ吉。

— 一次の日。

「え〜ん! ええ〜ん! !」

―また泣き出すニャン美…。

「どうしたの? ニャン美ちゃん?」

「机を見たら私のリコーダーが失くなったたの〜!」

―シクシク泣くニャン美は次の音楽の時間に使うリコーダーが失くなり、本当に悲しそうになっていた。

―そこへ…。

「ゴメン、ニャン美ちゃんのリコーダー盗んじやったの、実は僕なんだ!」

―正直に名乗り出たズボンだけ脱いだクマ吉の股にはリコーダー…ではなく、何故か尺八が挟まっていた。

「さあ、もう泣かないで…そして…ほおら、くわえ…いや、『吹いて』ごらん?」

一尺八をクイツと動かし、アピールするクマ吉を二人は驚愕と軽蔑の眼差しで見つめる…。

—…彼のAVない自白の後…しばらくして、例の如く警察官に速攻でお縄にされ、音の鳴る車に乗せられてしまった…ちなみにリコーダーは彼の自宅から唾液まみれで発見されたから、さあ大変。

「…僕もまた、正直さに踊らされた犠牲者の一人ということか…。」

—…正直に謝ったぐらいじゃ済まされないことだってあるんだよ、バカ!!

—3・『砂の城』

—テレビの画面に映る一匹のヒラメが砂の中に隠れて、そのまましばらくジツとしていた。

『ヒラメはこの様に砂の中に身を隠して擬態し、餌が通りかかるのを待っていたりしてます。』

「これだッ!!」

一夜中、家でエロ本を見つつ、テレビで『海の生き物特集』のヒラメに関する話題を見ながら『ある名案』を考えたクマ吉…またしても嫌な予感が…。

一翌日、どうぶつ小学校。

(さあ：僕の居場所が見破れるかな！？)

一全身にクマだからか？何故かハチミツを塗りたくって、砂でコーティングし、仰向けになって寝そべながら、女子達のスカートの中をガン見しまくってるクマ吉の姿があった：無論、全裸である、まさに変態！

「もしもし：警察ですか…。」

一ウサ美は冷静に例のイッチャった眼になりながら携帯を使って警察に通報した…。

「僕の努力なんて所詮は砂の城：頑張って築き上げたものでも、結局はいつか崩れ去る運命に過ぎなかったんだな、フフフ…。」

一不敵に笑みを零しながらパトカーに押し込められていくクマ吉：その笑みは何故か充実感に満ち溢れていた…。

一努力の形は人それぞれ：砂の城の如く脆いものもあれば、木造やコンクリートの様な頑丈な家にだってなれる、そう、努力は無限の可能性を秘めている：きつと、クマ吉はそれを伝えたかったのだと

…信じたい人っていますかね？

— 4・『詩』

「う○こ○う○こ○ち○こ○ち○こ○。」

— …二分三十秒、今までの中で最速のクマ吉逮捕の瞬間であった…。

「僕の詩は些か大人向け（アダルト）過ぎて、ちょっとよいこのみんなには難しかった様だね…。」

「むしろ直球過ぎたのが原因かと…。」

— 5・『自由な男の夢』

「助けて〜!!」

「やはり泣きながら何かから必死で逃げるニャン美。」

「どうしたの？ニャン美ちゃん？朝方見た夢でM字開脚しながら高速で迫ってくるクマ吉くんにでもストーキングされたの？」

「…発想が恐ろし過ぎる…しかも朝方の夢…どんな新手のストーカイだ、ウサ美よ…。」

「それよりもある意味悪質なストーカイにつけ狙われてるの〜!!」

「…どんなストーカイなのやら…まあ、犯人は例の如くあの変態紳士だけ…ど…。」

「ウサ美はやはりイッちゃった眼になるが、さすがのウサ美も絶句した…。」

ー犯人は確かに全裸で追い掛けてきたクマ吉なのだが、何やらミュージックが…

♪ F・R・E・E・D・O・M！

♪ F・R・E・E・D・O・M！

♪ ふり〜男〜夢（ダ〜ム）〜…

♪ 男ッ！！

♪ 解き放て、心^{ハート}〜

♪ 解き放て、魂^{ソウル}〜

♪ BIGな夢さ、ふり〜男〜夢（ダ〜ム）〜

♪ いいじゃんか〜

♪ そうじゃなか〜

ー…何故か尻をクイッククイッと、くねらせてダンスしながら歌を歌っていた…しかも微妙に美声だった。

一程なくして、手に縄どころか全身を亀甲縛りで縛られて署に連行されるクマ吉であった…。

「悪い夢ならば、覚めて欲しい……あ、でもまだ覚めないで欲しい、だんだん気持ち良くなってきたかも……もつと強く縛ってくれ！」

一夢から目覚めるどころか、軽くマゾに目覚めちゃったクマ吉であつた…。

一：さて、これから○回目の投獄となるが、最後に何か言い残したいことはあるか？クマ吉よ…。

「時よ、止まれ……お前は美しい……。」

「……死ぬまでブチ込まれてろやアアアアアアアアッ！！」

— 終わりッ！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4046n/>

許されざる紳士-THE HENTAI-

2010年10月8日14時27分発行